

東京

「其の日」暮らし

＝ドイツ編＝



D・I・Yの国 その1

冬なのに厚着をして出歩くと汗ばむ日が続いたのに翌日になるとお日様がサンサンと照らしているのに風は耳が痛くなる位冷たくてフードをかぶって歩いたりと天気がめまぐるしく変わっています。それでも夜は決まって冷えこむので保温性を良くするためにシャッターを閉めています。特にトイレは窓が閉まっているのにすきま風が入るので、日が暮れてからのシャッターは必須なのです。

D・I・Yという言葉を知っている人もたくさんいると思いますが、私はドイツに来て初めて知った言葉です。ドイツの住居のことをインターネットで調べるとこの言葉がよく目に付きました。最初はあまり考えもせずにはいたのですが、あまりにもよく見かけるので調べてみると「Do it yourself」のことだったので。英語なので身近で聞くことはありませんが、私の周りの家庭では壁塗りなどは朝飯前で壁にドリルで穴を開け照明器具を取り付けたり、キッチンを設置したり、暖房を修理したり、ある人は古い家を買って内部をすべて自分たちでリフォームしたりしているのです。日本にいたとき私がしていたのは障子の張り替えぐらい。スケールが違います。みんなが自分でする理由は専門の業者さんに依頼しても早くて1週間位は待たないと来てくれない上に料金が非常に高いからだそうです。また大きいホームセンターが郊外には必ずあり水道パッキンや色々な太さの角材、バスタブ、トイレ、ドリルや各種工具などありとあらゆる物が簡単に手にはいるのです。そんなホームセンターに新年早々お世話になる羽目になったのです。ドイツのシャッターは「巻き上げ式シャッター」で室内に付いたベルトを

引くことでシャッターをあげる仕組みになっています。なんと、12月28日の朝、突然トイレのシャッターのベルトがちぎれてしまったのです。とりあえずシャッターの収納部分を開けて見てみましたが構造がよく分からず回転軸を外すことも、錆ついた部品を取ることも出来ませんでした。一旦閉じて大家さんに連絡しましたが、業者さんは年明け7日まで休みなので、とりあ



トイレのシャッターのベルトがちぎると・・・



シャッターの事情解決

えず収納部を開けて状況をもう一度詳しく連絡するように指示されました。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞